

土佐漆喰・和紙で 問題解決!

例えば、土佐和紙を使った壁紙。

手触り、色合いともに和紙独特の風合いが木材とうまく協調しあって他の素材では表現し得ない、趣きある表情を見せてくれます。

また和紙には、湿気を吸い取る効果もあるため

室内湿度を自動的に調整してくれ、いつも快適な状態に保ってくれるなど
杉、桧、松などの木材をふんだんに使った
木の家にはぴったりの素材です。

手触りも、色合いも 使うほどに良くなる自然素材

- 脱・化学製品
- 色合い・質感の
経年変化
- 温度・湿度等の
自然調整機能

土佐漆喰

発酵した藁を塩焼きした粉末の消石灰の中に入れ、水といっしょにこね、藁スサをすりつぶしながらこね上げたものをビニール袋につめて三ヵ月から半年ねかせたものを土佐漆喰といいます。土佐漆喰は製法、手法ともにまったく他の漆喰とは違い、耐久性、表現の多様性に優れた、オリジナリティあふれる土佐の建築素材です。独特的の風合いとその仕上りは、全国からも高い評価を得ており、こだわりの木の家づくりに是非にとお薦めしたい自然素材です。



インテリアや屋根色に合わせて、好みの色に仕上げることもできる。



白い壁といわれる土佐漆喰は、施工から半年から1年をかけ白くなります。その白は厳密には純白ではなく、稻藁の非織維部分のもの淡黄色が溶け込んだ白に落ちていきます。また、壁となった土佐漆喰の感触はまるで赤ちゃんのお尻のよう、肌理の細かさと冷たさがあります。しかし、冷たさの中には奥底に血流のような優しい温もりを含んでいるかのようです。



和と伝統を醸し出す素材から、新しい感性の家づくりを引き立てる新・自然素材へ…

漆喰



土佐和紙

土佐和紙は長い歴史と手すきの技法と伝統を受け継ぐ人たちの努力によって、日本を代表する和紙として愛され、現在では壁紙をはじめとする建築表具や照明器具などに使用され、こだわりの家にはなくてはならない存在となっています。

昨今、「シックハウス症候群」と呼ばれる揮発性有機化合物やホルムアルデヒドが問題になっていますが、和紙は楮や三桠、雁皮、ケナフといった自然の植物を原料としているので身体に害を与えません。また収穫までの年数も木材パルプに比べ短いので森林伐採などの自然破壊にも影響を与えない、人にも地球にもやさしい自然素材です。

和紙は時間が経つほどに風合が良くなっていくのが魅力のひとつで、暮らしと共に変わっていく和紙独特の表情を楽しむことができます。



和紙

高知県の紙は、天皇への献上品としての記録から、約1000年前には製造されていたと考えられます。さらに「土佐日記」で有名な平安朝時代の歌人紀貫之は土佐の国司として製紙業を奨励しました。明治時代に入ると日本紙業界の恩人として知られる吉井源太が典具帖紙・三桠改良半紙などを考案すると同時に製紙用具の改良に力をそそぎ業界発展の基礎を築きました。昭和51年12月には「土佐和紙」という名称で高知県の手すき和紙全體が国の伝統工芸品として指定されています。



和紙の原料の一つ「ケナフ」。ケナフは空気中から吸収するCO₂の量が大きく、CO₂による温室効果をやわらげ、地球温暖化防止にも効果を發揮します。